

令和7年度 横浜市幼保小連携推進地区事業

西本郷地区 活動報告

大船ルーテル保育園
いいじまひがしこども園
横浜市立西本郷小学校

【推進テーマ】

「子どもの育ちと学びをつなぐ幼保小の交流と連携」

～アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの推進～

- ・一昨年度より三年間の幼保小連携推進地区の指定を受け、連携事業をスタートし、3年目のまとめの年となる。
- ・2年間の成果と課題を分析し、子どもの育ちと学びをつなぐ交流と連携について考える。
- ・20以上の園から本校に入学する子どもたちの園での学びや、育ててきた力をベースに架け橋プログラムを推進する。
- ・入学してくる児童や保護者の思いや願いに沿った幼保小の交流や連携を目指す。
- ・学校と園が子どもの実態に合わせて計画・交流を実施し、その上で園側、学校側双方のカリキュラムを見直すようにする。

▶ 令和7年度 架け橋プログラムの共有

・架け橋プログラム3年目を実施するにあたり、年度初めに全教職員の研修を行った。学校全体で架け橋プログラムおよびスタートカリキュラムへの理解を図り、昨年度の成果と課題についても簡潔に伝えた。

・下記のキーワードを大切に学校生活を創っていった。

「小学校は〇〇だよ。」→「園ではどうしていたの？」

「〇〇してもらおう一年生」→「考える一年生」「ヘルプが出せる一年生」

「教える」→「見つける」

「〇〇ができない。」→「△△はできる。」

「話してね。」→「どう思っているの？」

「〇〇しよう。」→「次はどうするの？」

「どんなちからがレベルアップできた？」

「じぶんがレベルアップしたいちからはなんだろう？」

そのことにより、学びに向かう力や豊かな学校生活を創る力が身についてきている。

令和7年度 幼保小連携推進事業

【推進テーマ】

「子どもの育ちと学びをつなぐ幼保小の交流と連携」
～アプローチカリキュラムの取組み～

いいじまひがしこども園
飯島東幼稚園・飯島東保育園

自ら考え、行動する力（生きる力）を育む・・・

いいじまひがしこども園では、子どもたちの「こうしてみたい」「ああしてみたい」と思ったことや「なんでだろう？」と不思議に思ったことなど、一人ひとりの考えや意見を聞きながら、実際にそれを形にしていくことを大切にされた保育を進めています。

【事例①】 遊びから行事（発表会）へ



★廃材遊びや工作の際に自由に使って良い棚に置いてある「スズランテープ」。
この素材は、「様々な色がある」ことや「半透明である」こと、「裂ける」ことなどが、子どもたちにとってとても魅力的だったようで、束ねて体に身につける遊びが流行り始めました。
そこから、「スズランテープを編んでみたり」、「スズランテープでリボンを作ってみたり」、と遊びが広がっていきました。

クリスマスツリー作り

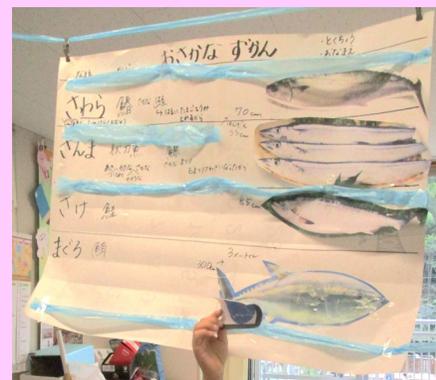


- ・廃材・工作遊びで使用していたスズランテープから広がっていったアクセサリー作り。
- ・そこからお店屋さんへと発展するクラスも。
- ・子どもたちが興味・関心のある遊びを、行事へと取り入れてみたことで、子どもたちも夢中でアクセサリーを作り、とても嬉しそうにおゆうぎに取り組む姿が見られました！
- ・クリスマスシーズンに入り、子どもたちの声からクリスマスツリーを作ることになった際、「飾りに、おゆうぎ会のために作った宝石を飾ったらきれいかも！」というアイデアが出ました。
- ・遊びこんだ経験が次の遊びへと生きてくるのを実感した瞬間でした。

これらの遊びを通して、
「**幼児期の終わりまでに育てたい10の姿**」のうち、
当てはまりそうなものがこんなにありました！！

- ①お気に入りアクセサリーをつけて全身で踊る。→【健康な心と体】
- ②「これやってみたいから、やってみよう！」→【自立心】
- ③友だちと一緒にアクセサリーやさんを作り上げる→【協同性】
- ④ハサミ使う時は人に向けないように。→【道徳性・規範意識の芽生え】
- ⑤「こうしたらもっとキレイかも！」→【思考力の芽生え】
- ⑥長さを測ったり文字で表したり→【数量や図形・文字等への関心・感覚】
- ⑦「こうするともっと良くなるんじゃない？」「そうだね！」
→【言葉による伝え合い】
- ⑧「この色合いがきれいだね」「オシャレにしよう！」→【豊かな感性と表現】

【事例②】 色々な遊び



魚に興味を持った子どもたちが始めた「おさかな図鑑づくり」。給食で出る魚やその他の魚を調べる中で、一般的な魚の大きさを「スズラントープ」を使って測ってみました。「巨大な魚は自分たち何人分くらいかな？」と寝転がる姿がありました（笑）。実際に目に見えて、イメージが湧いたのではないかと思います。



ダジャレに興味を持った子どもたち。思いついたり、調べたりしては、日々文字を書き込んでいきます。



昨年、保育者がみかんの皮でクラゲを作っていたことを思い出した子どもたち。気が付くと、足の部分となるみかんの白いスジを長くつくる競争が始まっていました。じょうぎの便利さを実感した子どもたち。

日々遊びに夢中な子どもたちは、遊びの中で様々なことを学んでいきます。

遊びの中で、「長さ」に興味をもったら、比べてみたり、じょうぎを使ってみたり。

「文字」に興味を持ったら、少しずつ文字を書いてみたり。

様々な経験から、「やればできるんだ」という自己肯定感に繋がっていくのだと思います。

令和7年度 幼保小連携推進事業

【推進テーマ】

「子どもの育ちと学びをつなぐ幼保小の交流と連携」
～アプローチカリキュラムの取組み～

社会福祉法人イクソス会
大船ルーテル保育園

ひまわりってなあに？

2つたねをうえたよ！



種まき



1つと2つ
どうして？

??

おおきくなあれ！



水やり

めがでてうれしい！
もっとおおきくなって
はながさくといいな♪

もっと
しりたい！

観察記録



どんなかたち？
どんないろ？

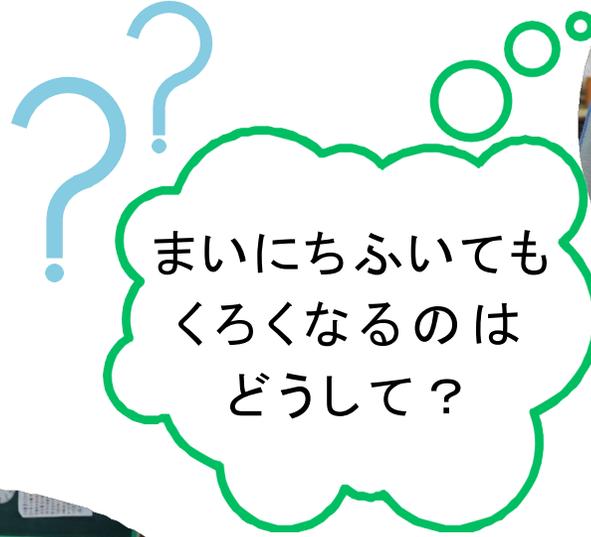


お掃除 っておもしろいね!

てくびを
ひねって
ギューツ!



雑巾絞り



まいにちふいても
くろくなるのは
どうして?



こんなに
よごれが
とれたよ!



椅子拭きグループ



床拭きグループ

クラス対抗
雑巾がけリレー
(お泊り会にて)



遊びへ発展

さあ、今日は何して遊ぶ？

自由遊びの時間は
「どこで」「誰と」「何を」を
自分で選びます



令和7年度 幼保小連携推進事業

【推進テーマ】

「子どもの育ちと学びをつなぐ幼保小の交流と連携」
～スタートカリキュラムの取組み～

横浜市立西本郷小学校

職員①「スタートカリキュラム研修」

新年度が始まってすぐ、全教職員で、スタートカリキュラムについて研修を行いました。かけはしプログラムのワークシートを使い、「幼児期の終わりまでに育ってほしい『10の姿』」が小学校とどうつながっているかを考えました。学校全体でスタートカリキュラムに取り組む基盤を作りました。

スタートカリキュラム研修
～どんな子どもの育ちを願うか～

それまでの育ちと学びをつなぎ、将来にわたって主体的に学ぼうとする子どもを育てる
そのスタートがスタカリ

本郷台小学校
校長 原 南実子

もってほしい視点

- ◆How to & Why
どんな子どもを育てたいか、という願いのもとに方法はある、という考え方
- ◆どのような育ちと学びを保障していくか
 - ★6年間を貫く主体性「わくわく・生き生き・学校が楽しい」
 - ★幼児期の育ちと学びを繋ぐ「小学校は0からのスタートではない」
 - ★「育定的子ども観」を共有できる学校に

学校として持続可能に

◆どのような育ちと学びを保障していくか

◇子どもを識る・知る

- ・乳幼児期の子どもを識る。「遊びは学び」【0歳から】
- ・わくわく感・夢中な姿・好き がもつ力
 - ⇒主体的な学びをつくる原動力
 - ⇒協働性や社会に関わる力、自分づくりにつながるもの
- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を理解
(年長児に見られる発達姿)
- ・育ちや学びの姿を推察できる力を
(実際の子どもの姿を見て)

育定的子ども観でとらえる

どんな育ちが見えますか 4歳



どんな育ちが見えますか 2歳



幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿 (方向目標)
この姿を手掛かりに小学校教育を考える

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

生活や遊びの中で

豊かな感性と表現

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

いきいき・わくわく・やってみよう!

日々の遊びが徐々に遊びを深めていく
子ども達の思いを大切にしながら子ども達によって作られていく

考えたこと、感じたことを書いてみよう①



職員② 「入学式」

入学式では、西本郷小学校のキャラクター「せいおうまる」が登場し、第1回校長先生クイズが出題されました。

昨年同様全職員で、次の登校日が楽しみになる仕掛けができた入学式になりました。

次の日は、元気に登校し「こうちょうせんせいくイズ」に答えていました。



スタートカリキュラム 架け橋プログラム

入学式から2か月ほどは、スタートカリキュラムとして、園との架け橋を考えたプログラムで学校生活が行われます。



7 (月)	8 (火)	9 (水)	10 (木)	11 (金)
	あさのしたく なかよくなるう	あさのしたく なかよくなるう	あさのしたく なかよくなるう	あさのしたく なかよくなるう
にゆうがくしき	<なかよしタイム> ・あいさつ ・げんきかな ・うたおう、おどろう ・ほんとなかよし	<なかよしタイム> ・あいさつ ・げんきかな ・うたおう、おどろう ・ほんとなかよし	<なかよしタイム> ・あいさつ ・げんきかな ・うたおう、おどろう ・ほんとなかよし	<なかよしタイム> ・あいさつ ・げんきかな ・うたおう、おどろう ・ほんとなかよし
	<わくわくタイム> かっごうの「はてな？」について かんがえよう ・じぶんのもつはどうする？	<わくわくタイム> かっごうの「はてな？」について かんがえよう ・ほけんしつってどこ？	<わくわくタイム> かっごうの「はてな？」について かんがえよう ・あんぜんにおきたら？ ・ヘルメットをかぶってみよう	<くんぐんタイム> ひなんくんれん ・あんぜんにひなんが できるかな
	<わくわくタイム> かっごうの「はてな？」について かんがえよう ・ごうていのたんけんにいこう	<なかよしタイム> じこしょうかいをしよう ・なまえをかいて、じこしょうか いをしよう	<わくわくタイム> かっごうの「はてな？」について かんがえよう ・きゅうしょくはどこでつくって いるのかな？	<わくわくタイム> かっごうの「はてな？」について かんがえよう ・ほけんしつってどこ？
	<わくわくタイム> かっごうの「はてな？」について かんがえよう ・どうやって、あんぜんにかえれ ばいいかな？	<なかよしタイム> じこしょうかいをしよう ・なまえをかいて、じこしょうか いをしよう	<わくわくタイム> かっごうの「はてな？」について かんがえよう ・あしたからおべんとう。	<わくわくタイム> きょうからおべんとう。「はて な？」をみつけて、かんがえよう。
	もちもの どうぐばこ こくごきょうかしよ	もちもの たいいくぎ こくごきょうかしよ	もちもの たんけんばっく さんすうきょうかしよ①	もちもの こくごきょうかしよ このひから、配達型おべんとうが はじまります。はしセット、ハン カチ

夏季合同研修会

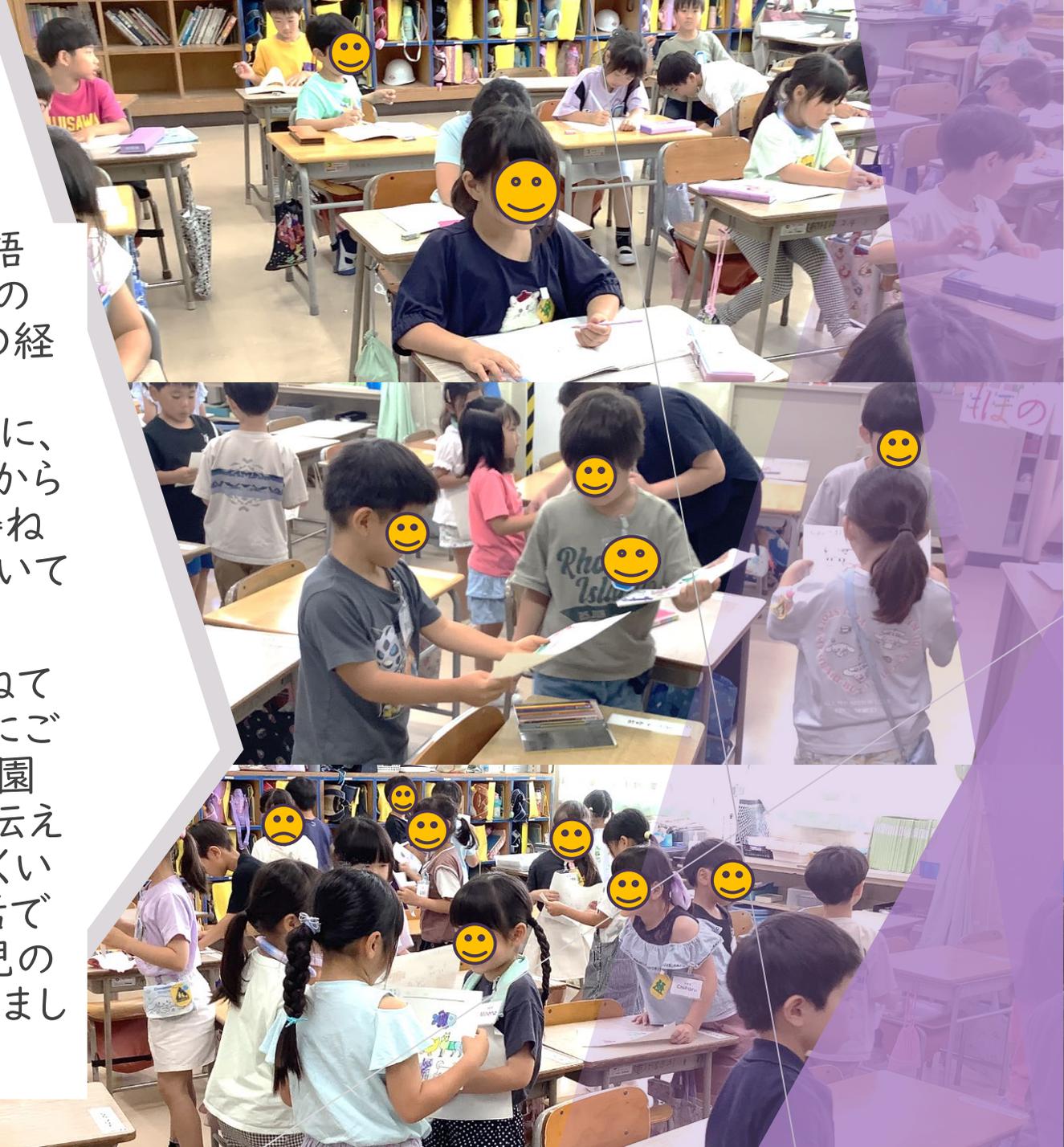
- ▶ 架け橋期コーディネーターを講師にお招きし、幼保小連携推進地区事業で大切なことを伺いました。
- ▶ 園の先生方と小学校の職員が一堂に会し、研修会をすることができ、顔の見える交流が行われました。



小学校重点研 授業参観 第1回

西本郷小学校では、今年度より重点研究で「国語科」に取り組んでいます。昨年度までの「生活科」の研究成果を生かし、国語科ではどのように、園での経験を生かすかを考えました。「園ではどうしていたの？」と自らが園で身に付けてきた力を感じると共に、「小学校でレベルアップする力」を明確にすることからスタートしました。重点研究のキーワードである「委ねる」ことの意義を分析し、個々に合った委ね方について研鑽を深めました。

栄区教育交流事業のFブロックの交流会とも兼ねていたため、2園だけでなくFブロックの園の先生方にご参観いただきました。夏休み後の一年生の姿に卒園児の様子を見ていただいたことで、言葉で思いを伝え合う姿や振り返りをする姿に安心された先生も多くいらっしゃいました。また、園での遊びが、小学校生活での学習や生活に繋がることを共有しました。卒園児の様子や掲示物等から成長した姿を感じていただきました。



交流会①

「ねんちょうさんとなかよくなろうのかい」



大船ルーテル保育園、いいじまひがしこどもえんの年長児を西本郷小学校の体育館に招待し、一緒に楽しい時間を過ごしました。1年生が会を進める姿に園の先生方は驚いていました。



みんなで「にしほんじゃんけん」や「かもつれっしゃ」をして笑顔が溢れました。また、おみせやさんごっこや、メダルのプレゼントをしました。一年生は、年長児のために自分の力をレベルアップできたことを実感しました。



小学校 重点研究 第2回



第2回の授業参観は1月21日(火)5時間目に行いました。国語科「ものの名まえ」の7時間目を公開しました。園での「ごっこあそび」「お店屋さんごっこ」の経験を踏まえ、小学校国語科としての指導事項に沿った「おみせやさんごっこ」にするには、どうしたらよいか、子どもたちが主体的に、遊びの中から学び続けるにはどのような手立てが必要か、考えながら学習を進めていきました。



参観された先生方からは、「学習の振り返りをする姿に驚いた。」「自分の言葉で表現しようとする表情がキラキラしていた。」「ことばのキャッチボールというキーワードを自分ごととして捉え、自然に会話している姿がよかった。」と感想をいただきました。

交流会②

「シンいちねんせいとなかよくなるろう①」

2月25日の新1年生及び保護者の方を学校に招待します。新入生が安心して入学できるよう1年生の教室やなかよし広場を使って、一緒に遊びました。1年生は2年生になった自分を思い浮かべながら、新1年生に優しく接する姿が見られました。また、保護者の方が、ロッカーの大きさや机の高さを確かめ、入学準備の参考にする姿も見られました。



〈全体を振り返って〉

【成果】

- ・連携事業3年間を通して、園と小学校での顔の見える連携を行うことができた。
- ・大船ルーテル保育園、いいじまひがしこども園の園児や保育の様子を知ることができ、同じ遊びや経験をしていることが分かった。それを小学校に繋ぐことができた。
- ・他学年の児童が総合的な活動等で、自主的に園と関わる姿が見られた。高学年の主体的な活動を通して次年度の幼保小交流に生かしていくことができると考えた。
- ・年長児と関わることにより、一年前の自分と今を比べたり、相手の立場に立って考えるということができるようになってきた。
- ・入学準備委員会を発足し、幼保小連携について組織で動くことができた。低学年の担任だけでなく、校内全体に連携事業について発信できたことは、大きな成果である。
- ・IT機器を活用し、「すぐーる」やメールで連絡調整をすることができた。
- ・学校が楽しい、学ぶことが楽しい、友達と一緒に楽しい、楽しい学校生活は自分たちで創っていくことができる、と思える子どもが増えたことが最大の成果と考える。

【今後に向けて】

連携事業は終了するが、連携は引き続き取り組んでいく。そのために、継続的に幼保小連携推進地区事業を校内で周知し、内容を伝えていく。持続可能な事業として引き継ぐために、情報の共有やデータ化を行い、3年間行ってきた事業をまとめていきたい。